

教科目標

- (1) 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。
- (2) 観察・実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
- (3) 自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

1学期 主な学習内容 (36時間)	2学期 主な学習内容 (38時間)	3学期 主な学習内容 (31時間)
[序章]自然の中にあふれる生命 1 オリエンテーション 2 自然の中にあふれる生命 [生命]いろいろな生物とその共通点 1 植物の特徴と分類 2 動物の特徴と分類 [地球]活きている地球 1 身近な大地	2 ゆれる大地 3 火をふく大地 4 語る大地 [物質]身のまわりの物質 1 いろいろな物質とその性質[物質] 2 いろいろな気体とその性質 3 水溶液の性質 4 物質のすがたとその変化	[エネルギー]光・音・力による現象 1 光による現象 2 音による現象 3 力による現象 [1年間の復習]

評価の観点と規準 (各観点の割合は、全て達成率100%で統一する。)

	評価の観点 (例)	評価の方法・資料	評価方法の規準と「概ねB評価」等の設定 (行動目標)
I 知識・技能	学校敷地内または周辺の植物について調べ、スケッチなどで観察結果を記録することができる。	[全教科共通] ・定期テスト 【各教科の方法・資料】 ・ワークシート ・実験観察レポート ・小テスト ・単元テスト ・実技テスト	実験観察レポートは、原則として、A、B、Cで評価する。 A 植物の特徴が詳しく描かれたり、記述したりできている B スケッチの正しい方法を用いて、植物の形がおよそ正確に描かれている C スケッチが正しい方法で描けていない
II 思考・判断・表	3種類の物質の密度を手がかりにして、それぞれの物質が何かをつきとめることができる。	[全教科共通] ・定期テスト 【各教科の方法・資料】 ・ワークシート ・実験観察レポート ・小テスト ・単元テスト	実験観察レポートは、原則として、A、B、Cで評価する。 A 実験結果から密度を求め、誤差を考慮しながら物質の種類を正しく区別することができる B 実験結果から密度を求め、物質の種類を区別することができる C 密度を求めたり、物質の種類を区別したりすることが不十分である
III 主体的に学習に取り組む態度	4種類の白い粉末の正体をつきとめるという課題の解決に向けて、実験計画を立て実験を行い、得られた結果をもとに他者と対話しながら、レポートを作成することができる。	[全教科共通] ・「知識及び技能」の観点の評価 ・「思考力・判断力・表現力等」の観点の評価 【各教科の方法・資料】 ・ワークシート ・実験観察レポート ・小テスト ・単元テスト ・定期テスト	[全教科共通] ・「知識及び技能」の観点の内容について、指示に従ってしっかり行おうとしたり、学ぼうとしたりする。 ・「思考力・判断力・表現力等」の観点の内容について、指示に従ってしっかり行おうとしたり、学ぼうとしたりする。 ・授業、課題に意欲的に取り組み、意見を積極的に発言しようとする。 【各教科 独自の方法】 実験観察レポートは、原則として、A、B、Cで評価する。 A 結果や既存の知識を用いたり、他者の考えを取り入れたりしながら科学的に探究しようとしている内容 B 結果を用いて科学的に探究しようとしている内容 C 結果を用いて科学的に探究しようとする内容が不足している